

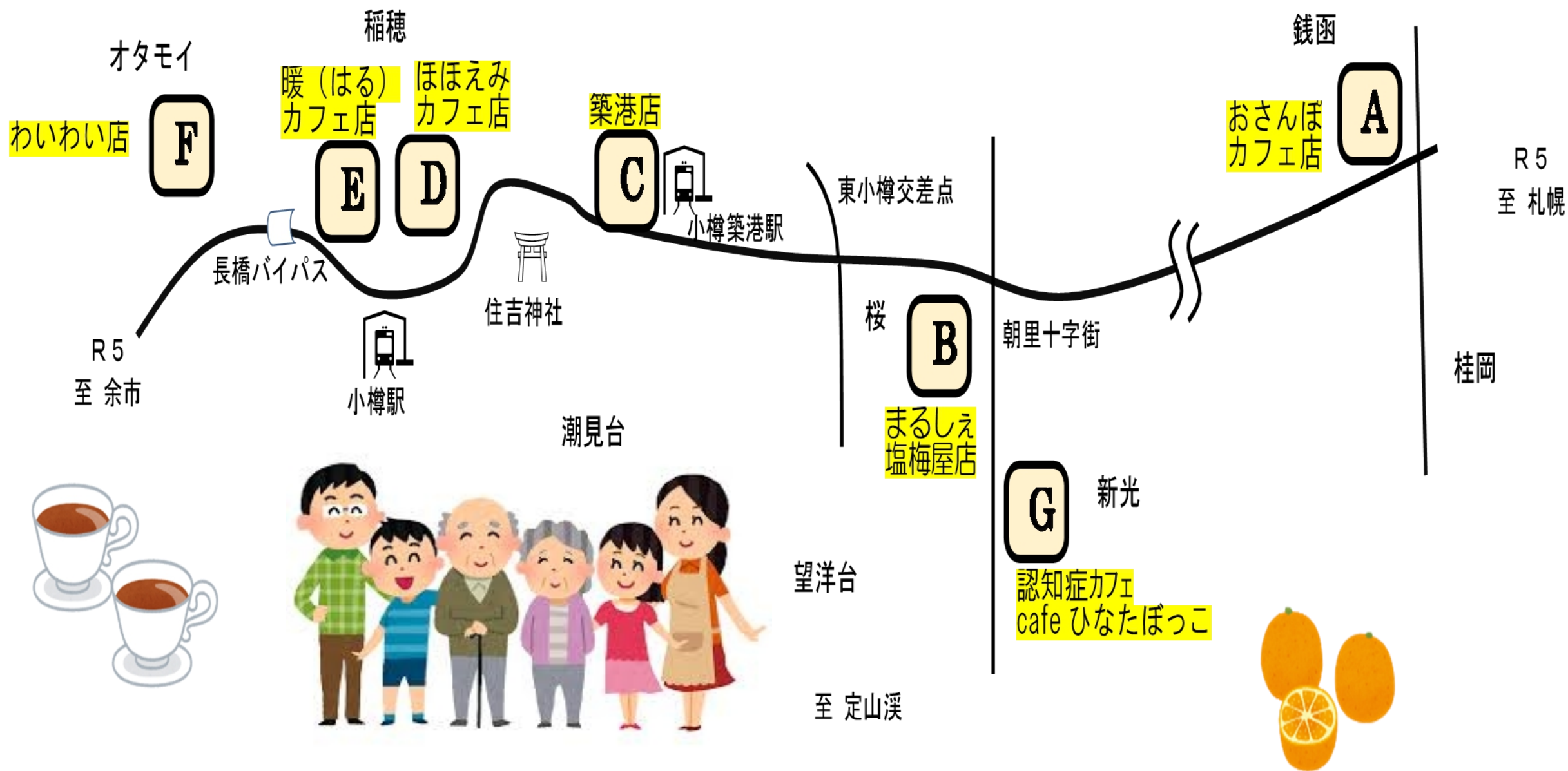
認知症カフェ（小樽オレンジかふえ） について

認知症の方とその家族、地域住民の方など誰でも参加でき集い、ふれあえる場です。

参加者の皆さんで温かいコーヒーなどを飲みながら団らんや情報交換などをして楽しい時間を過ごせます。



令和2年度の認知症カフェ（小樽オレンジかふえ）は7か所ありますが、新型コロナウイルスの影響により、現在、ほとんどのカフェが中止しています。再開時期については、各カフェにお問合せください。



令和元年度のカフェの様子を紹介します

A おさんぽカフェ店



- ・地域の居宅介護支援事業所が運営。
- ・地域に喫茶店がないため、高齢者の交流の場になっている。
- ・店内バリアフリー。

B まるしえ塩梅屋店



- ・地域の障害福祉支援事業所が運営。
- ・障害者就労支援として障害者もスタッフとして携わり、共生型のカフェを目指している。

C 築港店



- ・医療機関に併設された地域ケアセンターが運営。
- ・介護者同士が悩みを共有できるテーブル席を設け、専門職も加わり、介護負担の軽減にもつながっている。

D ほほえみカフェ店



- ・NPO音楽療法の法人収益を地域に還元したいという思いから認知症カフェを開催。
- ・グループホームの施設の一室で開催、入居者様と一般のお客様の交流の場になっている。

E 暖(はる)カフェ店



- ・ 社会福祉法人が運営。
- ・ 子ども食堂との併設型。
- ・ 商店街の一角に位置しており、小さな子ども連れのお母様たちの来客も増えている。

F わいわい店



- ・ 社会福祉法人が運営し、地域包括支援センターが実施。
- ・ 身体障害者福祉協会とも連携して共生型に近いカフェを目指し、皆で地域の認知症の方を支えていく工夫をしている。

G 認知症カフェ Cafe ひなたぼっこ



- ・ ボランティア団体「認知症カフェ ひなたぼっこ」が運営し、東南部地域包括支援センターが事務局をしている。
- ・ 「認知症になっても、思いやりで支えあう地域」づくりを目標に、「小樽・朝里のまちづくりの会」に運営の協力をいただき、認知症の方やご家族も来店。

